



TITLE:

<研究の周辺> 非常勤講師を体験して

AUTHOR(S):

三重, 遷一

CITATION:

三重, 遷一. <研究の周辺> 非常勤講師を体験して. 資本と地域 2004, 1: 49-49

ISSUE DATE:

2004-10

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/66118>

RIGHT:

<研究の周辺>

非常勤講師を体験して

三重遷一

例えば、これまで歩行者の視点で捉えていた風景をドライバーとしての視点から捉え直すと、異なる感想を抱くようになる。2004年の4月から3ヶ月間、立命館大学経済学部にて非常勤講師を経験したことで、初めて教壇に立つ人の気持ちが理解できたような気がする。いやはや、大学時代に受講した先生たちにゴメンナサイと謝りたい。まあ、「全員に」ではないのだが。

ここでは、私が受け持った講義「土地と住宅の経済学」において行ったアンケートから、興味深い結果を紹介したい。アンケートは、以下の設問を自宅生、下宿生それぞれに答えてもらった。なお回答数は自宅生29人、下宿生31人となっている。ちなみに回答者のほぼ全員が4回生であった。

アンケートの結果をみてみよう。以下の表は、優先順位の高い順から多かった回答3つを示したものである。まず表1の自宅生では、全体として「駅からの近

【問】	
自宅生の場合は、一人暮らしをする際にどのような項目を優先しますか？	
下宿生の場合には、一人暮らしを始める際にどのような項目を優先しましたか？	
優先度の高い順から3つ選びなさい。	
(1)部屋の広さ (2)駅からの近さ (3)日当たり・風通し (4)家賃	
(5)風呂とトイレが別か (6)遮音性 (7)冷暖房完備か	
(8)収納スペース (9)防犯対策 (10)住環境 (11)その他	

表1 自宅生の優先項目(単位:%)

第1位	第2位	第3位
駅からの近さ 27.6	家賃 24.1	駅からの近さ 20.7 家賃
部屋の広さ 20.7	日当たり・風通し 17.2	日当たり・風通し 13.8 遮音性
住環境 17.2	駅からの近さ 13.8	住環境 10.3

注: 横に優先度の高い順位3つ、縦にその項目毎の上位3つを表記している。

表2 下宿生の優先項目(単位:%)

第1位	第2位	第3位
家賃 35.5	部屋の広さ 22.6	部屋の広さ 22.6 住環境
駅からの近さ 22.6	家賃 12.9	風呂とトイレは別か 16.1
部屋の広さ 12.9	風呂とトイレは別か 9.7	駅からの近さ 12.9
風呂とトイレは別か	住環境	

注) 横に優先度の高い順位3つ、縦にその項目毎の上位3つを表記している。

さ」・「部屋の広さ」に代表される利便性・立地性に加えて、「日当たり・風通し」や「住環境」といった建物構造や周辺の環境も重視していることが読み取れる。他方、表2の下宿生をみると、まず「家賃」の項目を1番に挙げている。自宅生の結果でも重視されていたが、現実には家賃を支払う段になると、より価格の優先度が上昇すると考えられる。他にも、「部屋の広さ」・「駅からの近さ」といった項目は自宅生も優先しているが、全体として下宿生は「周辺環境の充実」より「居住スペースの充実」を望んでいると言える。その証拠として、下宿生の優先する項目にあって自宅生のそれにはないのが「風呂とトイレは別か」というユニークな項目である。

つまり、一人暮らしを始める前は、建物構造・家賃・周辺環境を総合的に考慮しているのにもかかわらず、実際に一人暮らしを始める時には、自分の居住スペースを充実させることを優先している。この変化はどうして生まれるのだろうか。第一に支払能力と家賃の関係があるだろう。だがそれ以上に、そうした適切な建物構造と良好な周辺環境を備えた住宅が十分に供給されていないからであろう。

多くの先進諸国において、程度と内容の差こそあれ、住宅は「街並み」の一部として私的財であると同時に公共財とみなされている。残念ながら、日本では住宅を公共財と感じるような意識はまだ熟成していないと言える。公共性意識の発展は、社会的・経済的・文化的発展の程度に依存する。今後、住宅を地域空間の構成要素とみなす意識がさらに高まれば、市場を介してより良好な住宅と住環境を整備する方向に向かっていくだろう。

同時に、学生の精神的成熟度も住宅と同じく発展してくれんことを願ってやまない。

(京都大学大学院経済学研究科)